

令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

校名	府立泉鳥取高等学校
校長名	橋本 敏和

開催日時	令和5年11月10日(金) 15:00 ~ 16:30
開催場所	泉鳥取高等学校 会議室
出席者(委員)	山田良治会長、中山孝一副会長、今井 あや委員 坂上 尚大委員、大久保宏俊委員
出席者(学校)	橋本校長、妻木教頭、法橋事務長、安田首席、中山首席、 坊内指導養護教諭、谷内進路指導部長、宮本保健主事、新明2学年主任、田畑3学年主任
傍聴者	なし
協議資料	第2回学校運営協議会次第・資料
備考	

議題等(次第順)	
1	校長挨拶
2	学校より令和4年度および令和5年度5月までの状況報告 教頭 令和5年度 前期授業アンケートについて 教務部 教科書選定委員会について 支援教育委員会 進路指導部 昨年度の 進学・就職の状況 自治会部 体育祭の報告および次年度の体育祭・文化祭について 保健部 インフルエンザ罹患の急増、次年度の健康診断について 支援教育委員会 「大阪府立高校生の日常生活アンケート」およびヤングケアラー支援機関調査について
3	学校運営に関する意見交流
6	校長挨拶
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
<p>・次年度の学校行事については、具体的にはソロキャンプやサバイバルゲームなど、少人数だからこそ可能な内容にすべきでは？(地域企業代表)。</p> <p>・ヤングケアラーが令和4年度で11%程度ということで、学校の調査ということでよりリアリティのある数字が出ている。個別の支援体制については報告を聞くと大変素晴らしいと思う(地域住民)。</p> <p>・質問1 次年度はいよいよ1学年ということで人数が減少するが、教職員の数はどうなるのか？ ⇒ おそらく13名程度になる(校長)。</p> <p>・質問2 次年度少人数になっていくが、閉校に向けて最後の終わり方はどう考えておられるのか？(教育関係者) ⇒ 閉校記念事業を活用して、これまでの生徒と教育環境が著しく低下しないように工夫したい。具体的には、演劇鑑賞を閉校記念事業に位置付け、劇団四季「バケモノの子」を全校生徒で感激するのの一つ。そのほかにも金融教育モデル校としての取組みを提供したりしている(教頭) ⇒ 少人数となるので、これを展開、進路別のクラス編成にして、進学・看護・就職の進路実現を期したい。(校長)。</p> <p>・高大連携の一環として以前「偏差値教育を超えて」というシンポジウムを大学で行った。このシンポジウムには文部科学省初等中等教育局の人も来ていたが、文部科学省ではこの問いに答えるすべを持っていない。 OECDの調査によると、日本の高校生は自己肯定感が著しく低いことがわかっている。大学でも同様で、大きな課題となっている。自己肯定感をどうやって高めていくのか？本学では、留学生70%、国内学生30%という比率になっているが、自己肯定感の高い他国の人々との交流によって自己肯定感が向上するケールを多くみる。自己肯定感向上のために、何ができるのかを考えていくことは重要だ(学識経験者)。</p>	

次回の会議日程	
日時	令和6年2月16日(金) 15:00~
会場	本校 会議室